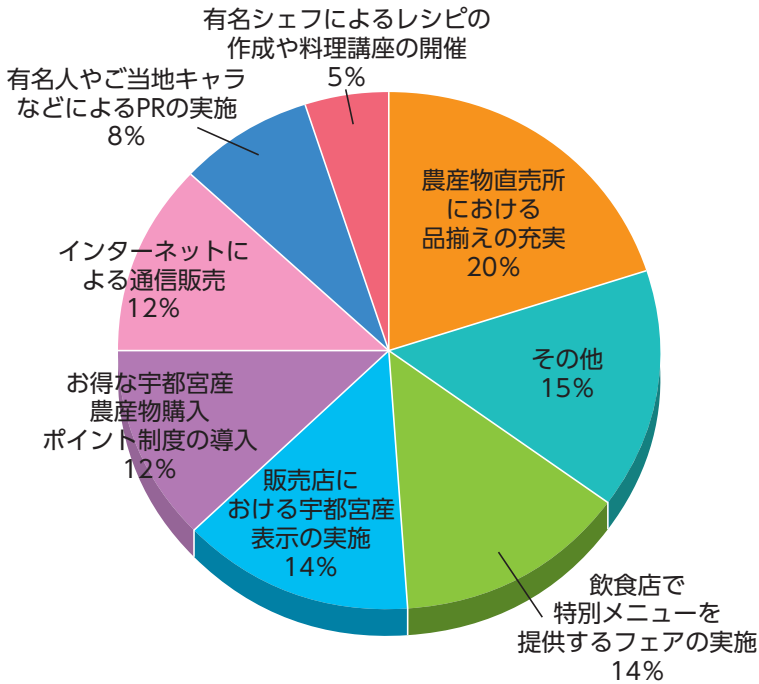




前回の広報うつのみやプラス「農産物」に対して30人の市民の皆さんから意見をいただきました。代表的なものを紹介します。

(1) 宇都宮産農産物の消費拡大のためにどのような取り組みが必要だと思いますか(複数回答可)



(2) 宇都宮の農業を元気にする方法をご自由にお書きください。

- 地産地消を一人ひとりが理解しなければ消費拡大は難しい。農家の人たちも自分の野菜をPRする力を身に付けて欲しい。調理法など食べ方を研究し、購入者に教えたりすることも必要かと思う。(60代)
- 安全・安心・高栄養・おいしさ・鮮度がそろえば少し高価でも購入したい。そのような商品に目印のシールを貼ると安心感が高まると思う。(元今泉)
- 幼稚園や学校給食で宇都宮の農産物を使用する。幼児に対して農業体験や農作物の収穫体験の場を設ける。(下岡本町・20代)
- 生産面では、新規就農者の掘り起こし、金銭面の援助。販売面では、高齢化が進む中、身近なマーケットが必要で、宇都宮産を集めた土・日曜日のマーケットの開設など、小売店もまき込み恒例化する。(岩曾町・70代)
- 農産物直売所を利用している。珍しい野菜に料理レシピがついていると助かる。(宝木町2丁目・70代)
- U字工事さんのPRによってかんぴょうが県の特産物であることが全国区になったり、「なすべん」の好評など、県内でも良い取り組みがあったりした。最近女性の間で野菜がたくさん食べられるレストランが人気なので、農と市内のレストランやカフェが提携するといい。(城東・40代)
- 地元農業者による積極的なPR活動。(30代)

前回の広報うつのみやプラス「ものづくりのまち宇都宮 農産物×人×地域=魅力」の概要



地産地消と農産物の新たな魅力創出

宇都宮は、豊かな自然と肥沃な土壌に恵まれた農産物の産地です。私たちの生活に身近な農産物も、製造や加工を経ることで、地域の特徴を生かした優れた商品に生まれ変わります。そのような魅力を生み出すために、市では、JAうつのみやや宇都宮商工会議所と共同で「うつのみやアグリネットワーク」を設立し、異業種の出会いの場の提供や新商品の開発を応援しています。

農産物と人と地域で新商品開発

地元製造業者・JAうつのみや・地元自転車ロードレースプロチーム宇都宮ブリッツェンの三者が開発に関わった初の事例であるブリッツェンバーガーと栄養補給食ブリバーの開発を中心に紹介。新たな消費拡大に向けて、身近な地域で顔の見える生産者から作られた安全・安心な農産物をさらに魅力ある商品に加工し、新しい商品として消費者へ提供できるよう取り組んでいます。

広報うつのみやプラスや政策特集は、皆さんと一緒に考えていただきたいテーマを取り上げ、年4回編集します。



料金受取人払郵便

3 2 0 8 7 4 0

宇都宮支店
承認
3191

差出有効期間
平成26年8月
15日まで

【切手不要】

(受取人)

宇都宮市旭1丁目1番5号

(宇都宮市役所)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

行



3 2 0 8 7 4 0

3

氏名	住所	
年齢	歳	職業

差し支えなければ記入してください。広報紙で意見を紹介する際には、氏名の記載はしません。なお、はがきの情報については、目的以外には使用しません。